



安岡ひまわりレディース(前列中央が田崎代表)

安岡ひまわりレディース



今回は、下関市を代表する安岡ネギやハナツコリー、パセリ、枝豆、小松菜などの野菜を育てながら、市内の小学生を中心に、いのち、食の大切さ・感謝・人とのつながりを伝えていく食育活動に、長年取り組む「安岡ひまわりレディース」を紹介します。

ひまわりのように

会の始まりは今から25年くらい前。7人で活動を始め、すぐに15人になり、現在は44人で活動しています。皆さん農業に携わっている方々です。食育は平成17年から本格的に取り組んでおり、小学校だけでなく、幼稚園から中学校まで幅広く、市内全域で出前の食育授業をしています。

発足当時、メンバーの家は3世代同居の農家ばかりでした。大家族の中心で、いつも明るく、太陽に向かって咲くひまわりのようにありたいと、会の名前を「ひまわりレディース」としました。

皆さんが集う「ひまわり夢ハウス」(安岡町七丁目)を訪ねると安岡ネギの出荷作業の真っ最中でした。「声を掛けると、あら、いらっしやい」

と皆さんの元気な声。あふれんばかりの明るい笑顔は本当にひまわりのようでした。

現在、下関市食育推進会議の委員としても活躍している代表の田崎さん。最初の頃は、食農教育として、子どもたちへの田植え体験、稲の生育などを行っていましたが、市の食育ボランティアの登録をきっかけに、学校へ出前授業に行くようになったそうです。今では幼稚園・小学校・中学校などに年間5回程度行っています。

子どもたちに伝えたいこと

食育で子どもたちに一番伝えたいことは「命の尊さと食べることで生きていることを学ぶことなんです。本当の食育とは、食べることは生きていることを学ぶことなんです」と田崎さん。食育推進会議の委員になって、大学の先生や市の栄養士など多くの方との出会いがあり、いろいろな学んでいく中で、子どもたちにも食について伝えていきたいと強く思ったそうです。

ひまわりレディースの活動拠点である「ひまわり夢ハウス」には多くの子どもやお母さんが集まり、メンバーと交流しながら食育の話

をしています。副代表の小田さんは「お正月の七草、夏の七夕には誰でも自由に夢ハウスに入れるようにして、ちょっとした料理を作って交流しています」と話します。

ひまわり夢ハウスは、近所の人ともお茶を飲んだり、集会に使ったりと地域のコミュニティの場にもなっています。

お互いを思う気持ちを

会のメンバーも年を重ねていく中で「みんながお互い助け合ってたから会を続けられたんです。楽しかったですね。年を取らんと分からんこともだんだんと見えてきたんで、もう年やからって言わんでみんなと新しいことに挑戦して、社会に発信していけたらいいなっと思うんです」と田崎さん。

これからも、みんなで仲良く、健康で、ひまわりレディースの理念である「みんなは1人のために1人はみんなのために」を実践していきます。



食農教育



田植え体験



稲刈り体験



小学校での食育出前授業



ひまわり夢ハウスでの作業